

薬局ビジョン推進事業

～ 地域特性を踏まえた健康サポートに向けて～

静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課
公益社団法人静岡県薬剤師会



静岡県概要



368万人

全国
10位
(H27.8.1現在)



健康寿命

73.90歳

全国
2位
(H27公表)



県内
総生産

15兆4,853億円

全国
10位
(平成24年度)



製造品
出荷額等

15兆6,991億円

全国
4位
(平成25年)

輸送機器(2位)、電気機械(1位)、化学工業(5位)、飲料等(1位)、
食料品(9位)、パルプ・紙(1位)、ピアノ(1位)等



1人当たり
県民所得

319万5千円

全国
3位
(平成24年度)

順位	男女計	
1	山梨	74.19
2	静岡	73.90
3	宮崎	73.67

順位	男性	
1	山梨	72.52
2	沖縄	72.14
3	静岡	72.13

順位	女性	
1	山梨	75.78
2	静岡	75.61
3	秋田	75.43

健康情報拠点推進事業(平成26,27年度)実施内容と課題

○ 情報提供・相談窓口の設置、周知

(H26) 薬剤師会全薬局に窓口を設置

(H26・27) 地域イベント、ポスター等で薬局の健康相談窓口設置を周知

(H27) 肺機能測定の実施による具体的な窓口相談例を周知



○ 薬剤師を対象とする研修会の開催

(H26) 薬剤師によるセルフメディケーション支援、OTC医薬品の販売における役割

(H27) 禁煙、COPD、肺機能測定器に関する知識、適切な受診勧奨について

○ 肺機能測定器による禁煙等健康支援

(H27) モデル地域での肺機能測定と禁煙等健康支援の実施

(モデル地区54薬局(801人)、イベント会場4地域(793人))



結果・課題

- ・相談率上昇・・・健康相談、在宅医療・介護相談 (10.8% ↑)
- ・認知度大・・・薬局の健康相談機能を知っている人の割合 (78.9%)
- ・期待度大・・・禁煙等健康相談に満足 (81.5%)、必要な医療対応期待 (50% 以上)
- ・健康等認識度に格差・・・薬局来訪者 (高)、イベント会場来訪者 (低)
- ・多様なニーズ・・・受たい健康相談内容は生活環境や家庭環境で異なる。

課題解決のポイント

薬局に立ち寄らない県民への効果的なコンタクト
生活環境等により異なる健康相談への対応
医療関係者・機関との連携

県民へのアウトリーチ

地域健康課題の理解

関係者との連携体制

薬局ビジョン推進事業の概要



卒煙チャレンジサポート教室

モデル地区

事業所等へのアウトリーチ

禁煙教室、肺機能測定
禁煙啓発、健康教室



喫煙率が高い事業所等をターゲット

個別相談

- 禁煙計画の提言
- 禁煙支援・啓発
- 健康相談
- 受診勧奨等医療対応

地域密着お達者講座

モデル地区

老人会・婦人会等の 集まりへのアウトリーチ

地域の健康課題の説明
健康づくりの取組の紹介
(ふじ33プログラム)
薬との付き合い方
薬局の健康サポート機能



個別相談

- 地域健康課題改善についてのアドバイス
- 健康づくりの取組の活動支援
- 健康相談、残薬チェック
- 受診勧奨等医療対応

地域健康課題研修

県内全域

< 全体研修 >

- ・地域の健康課題
- ・健康づくりの取組 (ふじ33プログラム)

< 個別研修 >

- ・個別疾患への対応

講師: 医師

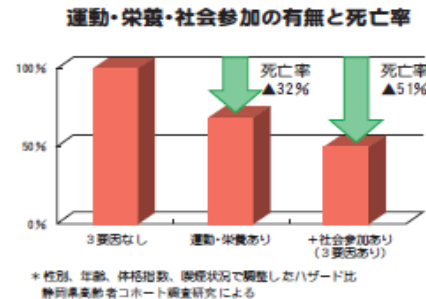
疾患: 高血圧、禁煙、糖尿病

個別相談

地域健康課題に関する県施策

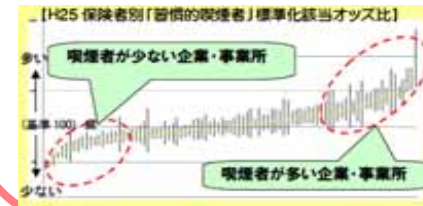
本県高齢者コホート研究結果を元にした健康づくりへの取組

- ふじ33プログラムの実施
運動、食生活、社会参加の3分野に関する取組を3か月間、3人で励ましあい継続することで望ましい生活習慣を身に付け、健康長寿を目指す。
「健康寿命日本一に向けたふじのくにの挑戦」として第1回健康寿命をのばそう！アワード最優秀賞受賞。
- 平成28年度からシニアが取り組みやすいシニア版プログラムを導入



特定検診・特定保健指導にかかる検診データの分析と活用

- 国民健康保険、共済組合、健康保険組合、協会けんぽ等の協力で得られた61万件の特定検診データ等を分析し、地域ごとの健康課題(喫煙、糖尿病、高血圧等)を分析。
- 習慣的喫煙者が多い保険者(事業所・企業)を抽出し、個別の健康指導に活用。



薬剤師・薬局が
地域で推進

行政

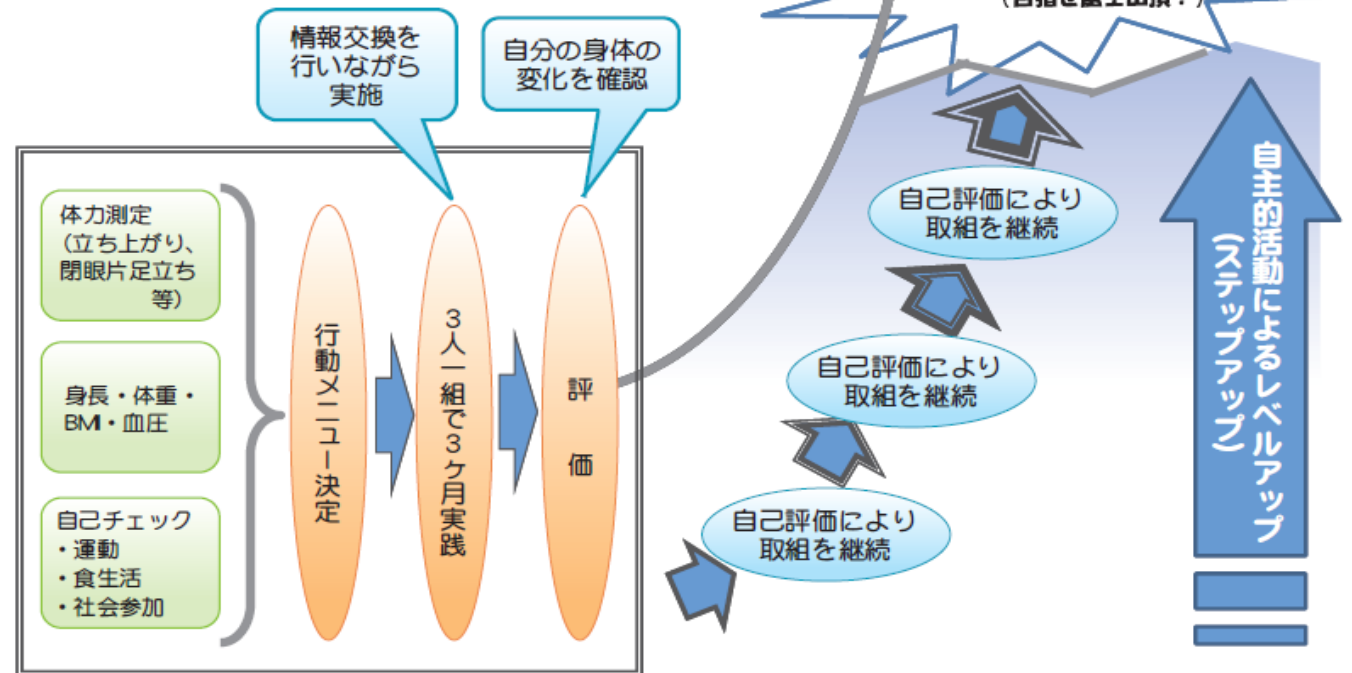
- 地域に根ざした薬剤師・薬局が取組を進めることでの健康づくりの取組の拡大・強化に期待

薬剤師・薬局

- 地域の実情に応じたかかりつけ薬剤師・薬局の機能の強化
- 行政機関・医療関係者等とのネットワーク強化

< 参考 > 健康づくりの取組（ふじ3 3プログラム）

ふ	普段の生活で
じ	実行可能な
3	「運動」・「食生活」・「社会参加」 3つの分野の行動メニューを
3	3人一組で、まずは 3か月間 実践

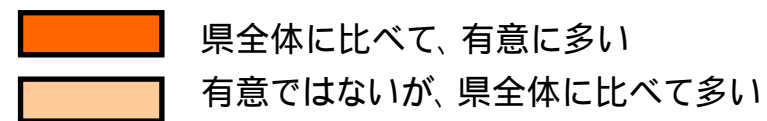
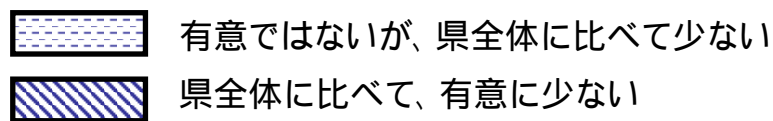
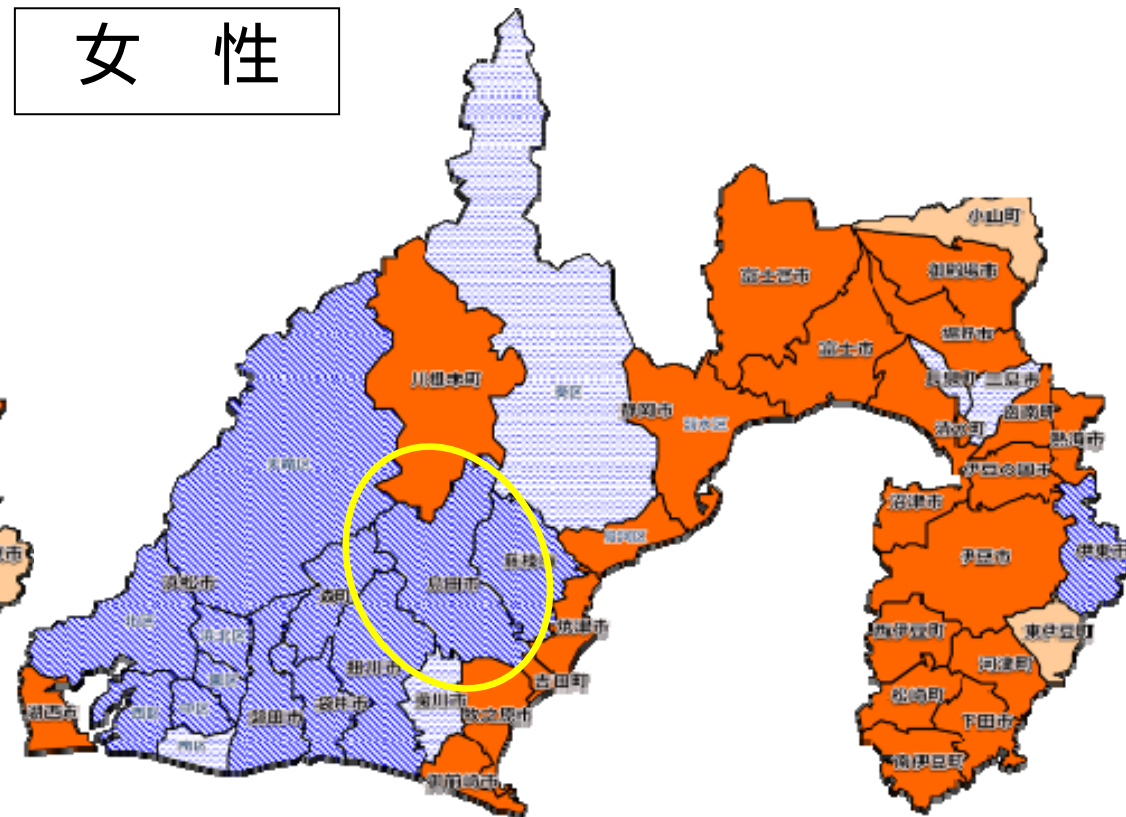
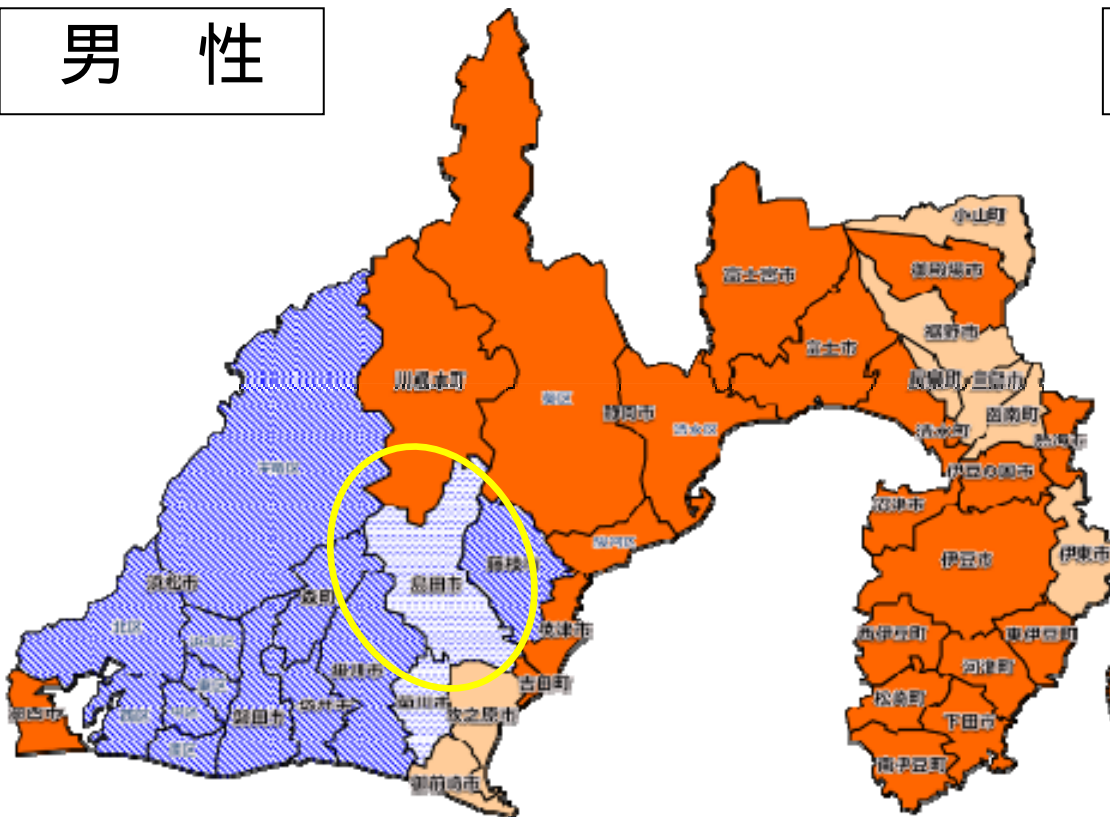


< 参考 > 61万件の特定健診データの分析

例) 高血圧症有病者分析結果 県東部と中部の一部に高血圧症有病者が多い

男 性

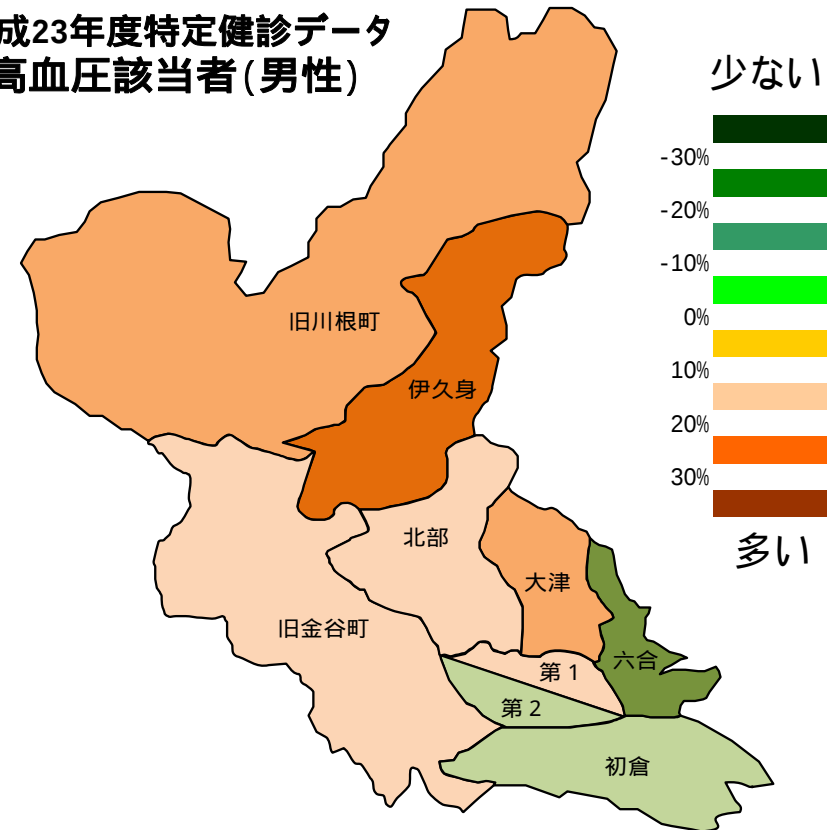
女 性



さらに、市町では自治会別分析



平成23年度特定健診データ
高血圧該当者(男性)



薬局がある地域住民の健康課題を認識
地域自治体、医療関係者との連携促進

1.地域健康課題等研修会

目的

県高齢者コホート研究結果に基づいた健康づくりへの取組である「ふじ33プログラム」および特定健診データ分析等による地域健康課題の状況の理解、また地域健康課題の正しい知見を獲得すべく行政・医師会の協力のもと健康サポート薬局機能強化のために実施



1.地域健康課題等研修会

日時：平成28年9月22日（木・祝日）

会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

参加者：県内薬局薬剤師214名



1.地域健康課題等研修会

- 基調講義(全員):静岡県健康福祉部に依頼
- 講義1「患者のための薬局ビジョン」
- 講義2「特定健診データ分析等による地域健康課題の状況」
- 講義3「みんなで実践する健康づくり『ふじ33プログラム』の概要」



1.地域健康課題等研修会

- 健康課題別分科会:

1. 分科会1～3共通部分: 県薬剤師会が担当

「薬局における健康サポートの実践と効果の検証」

2. 各分科会の講演については静岡県医師会に依頼

分科会1 (喫煙)「喫煙と生活習慣病」

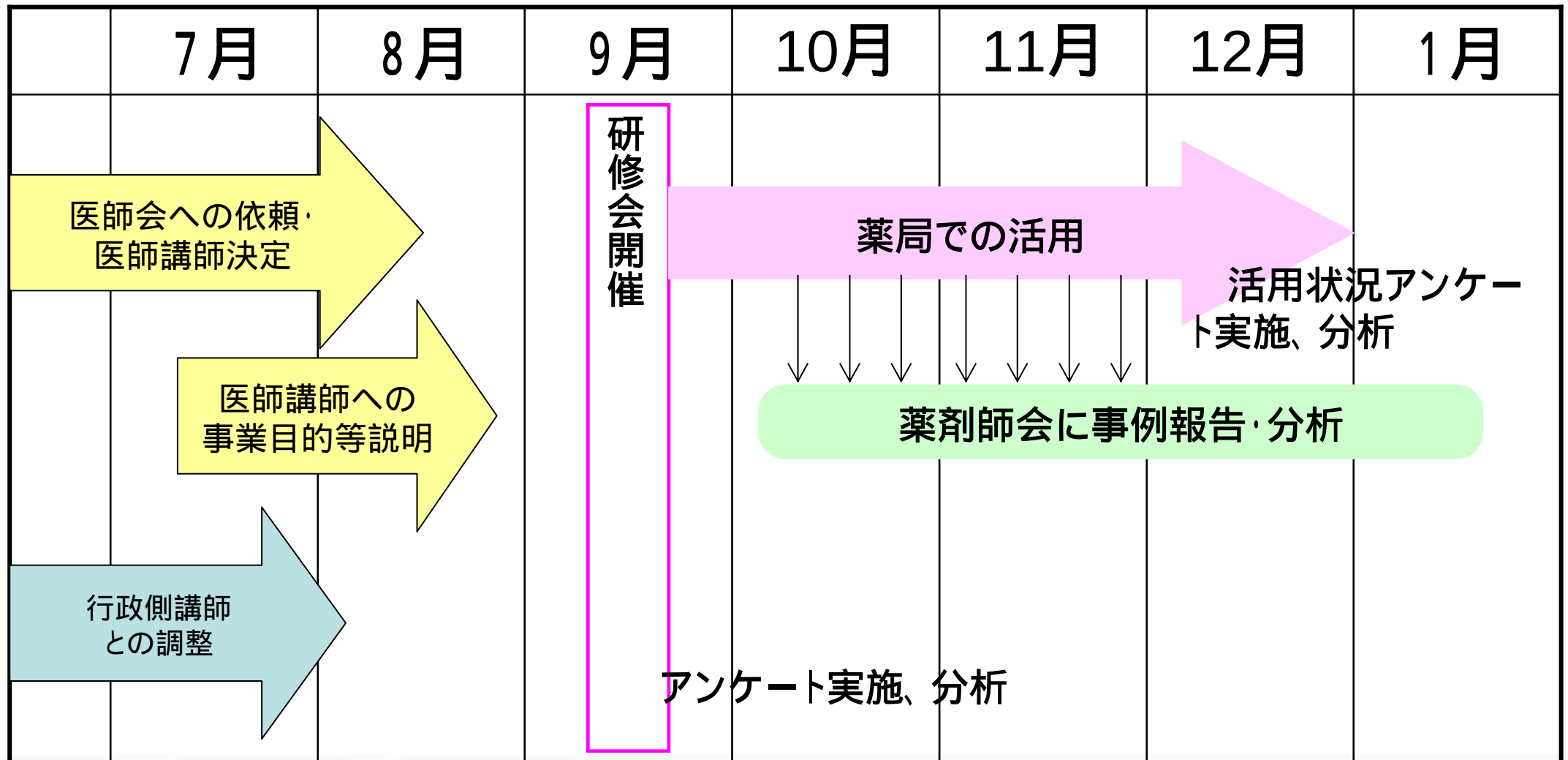
分科会2 (高血圧)「高血圧症とその予防」

分科会3 (糖尿病)「糖尿病とその予防」



1.地域健康課題等研修会

<スケジュール>



1.地域健康課題等研修会

- 研修会終了時に研修内容の理解度、薬局個別相談業務への活用可能性についてアンケート実施

講義2「特定健診データ分析等による地域健康課題の状況」

理解度：理解できた72.2%、一部理解できた27.3%

活用期待度：活用できそう79.5%

講義3「みんなで実践する健康づくり『ふじ33プログラム』の概要」

理解度：理解できた75.1%、一部理解できた23.9%

活用期待度：活用できそう77.6%

理解度・活用期待度ともに高い値を示した



1.地域健康課題等研修会

健康課題別分科会

分科会1「喫煙」 活用期待度：活用できそう92.9%

分科会2「高血圧」 活用期待度：活用できそう85.4%

分科会3「糖尿病」 活用期待度：活用できそう88.3%

いずれの分科会においても
高い活用期待度を示した



1.地域健康課題等研修会

- 研修会終了約3か月後に受講者全員に対し郵送にて研修内容活用度についてアンケート実施

(回答率85.4%)

研修会内容は薬局業務での個別相談に役立ったか？
「非常に役立った」24.6%、「役立った」68.0%の高い評価

有用性90%を超える高い評価

活用内容 複数回答あり	
生活習慣改善の重要性理解させ、実践支援	131件
医療機関への受診勧奨促進	32件
「ふじ33プログラム」紹介し、健康づくり支援	25件

2.地域密着お達者講座(モデル地区)

- 地区：島田薬剤師会(県中部地域)
島田市(旧金谷町、旧川根町を除く)の開局薬局38軒、
会員数66名(平成28年4月時点)で構成



静岡県のほぼ中央に位置しています。北には南アルプスへ続く山々が連なり、南西には緑豊かな牧之原台地が広がります。人口は10万弱、世帯数は3.7万。

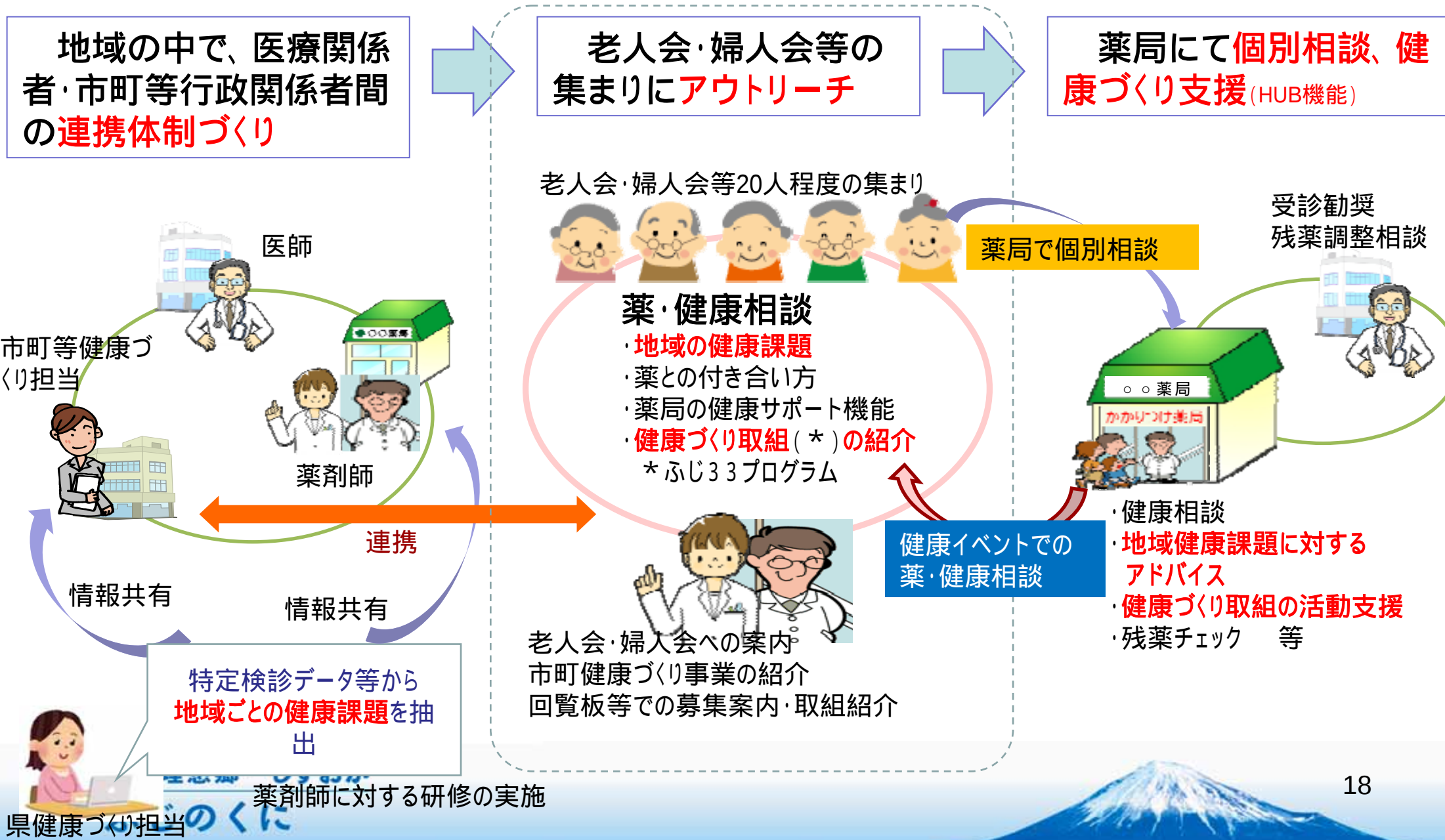
富国有徳の理想郷ーしずおか

ふじのくに



2 地域密着お達者講座

回覧板、広報誌の活用やメディアによるアウトリーチ現場への取材等により県民へ周知



2.地域密着お達者講座(モデル地区)

- 医療機関等を含む関係者との連絡会の開催

日 時: 平成28年8月18日(木) 19時～20時

場 所: 島田市保健福祉センター 2階 地域活動室

出席者: 島田市健康福祉部長寿介護課 2名

島田市健康福祉部健康づくり課 1名

島田薬剤師会 4名

内 容: 事業概要

お達者講座に使用する資料

ふじ33プログラムの島田市の取組

薬局におけるふじ33プログラムの方法



2.地域密着お達者講座(モデル地区)

日 時：平成28年9月6日(火) 19時30分～20時30分

場 所：島田市保健福祉センター 3階

島田薬剤師会会議室

出席者：島田市医師会長

島田薬剤師会会長、他薬剤師会2名

内 容：事業概要

お達者講座に使用する資料

医師会会員への周知・対応依頼

・ブラウンバックの活用による疑義照会

・院内処方診療所でお薬手帳への記載がない
場合の対応 等



2.地域密着お達者講座(モデル地区)

- 薬剤師会員に対する事業説明

日 時: 平成28年8月27日(土)
17時00分～20時20分

場 所: 島田市保健福祉センター 3階
島田薬剤師会会議室

出席者: 島田薬剤師会会員 33名

内 容: 事業概要
ふじ33プログラム概要及び島田市に
おける取組
島田市における地域健康課題
お達者講座に使用する資料
会員薬局における対応方法



2.地域密着お達者講座(モデル地区)

- お達者講座の開催

開催期間: 9月18日～12月8日

開催回数: 18回

実施時間: 概ね1時間

対 象: 島田市内地区敬老会、自治会、地域保健
講座(オープン参加)など

受講者数: 1回あたり15～50名程度、延べ502名

講座内容: 薬局の上手な利用方法
ブラウンバッグ運動
ふじ33プログラム など

配布資料: 残薬バッグ・お薬手帳



2.地域密着お達者講座(モデル地区)

- お達者講座の開催
配布資料: 残薬バッグ・お薬手帳



薬と健康の週間にあわせて 県広報誌(県民だより)で かかりつけ薬剤師・薬局 の啓発 (平成28年10月号)

県民100人以上から
意見が寄せられ、一定の効果

「困ったときに薬局を利用すればよいことがわかった」
「残薬に困っていたので早速相談した」

富国有徳の理想郷 - しずおか
ふじのくに

3

静岡県広報紙 県民だより 10月号 平成28年(2016年)10月2日(日)発行



自宅での療養が必要になり、薬のことが気になる場合でも、家にいながら服薬指導が受けられたり、悩みを相談できたりします。

自宅に薬剤師さん



どの病院・診療所でも丁寧に説明が受けられ、飲む回数や減らしたり、1回に飲む量を1錠にまとめたりするなど、飲みやすさや飲み忘れ対策の相談ができます。



複数の病院・診療所に通っている場合、飲み合わせや薬の重複を薬剤師が継続的に確認し、副作用を減らすことができます。

家族で同じかかりつけ薬剤師・薬局を持つと、家族の体質や食生活なども分かるため、家族みんなの健康についてのアドバイスも受けられます。
10月からは地域の皆さんの健康づくりを積極的に支える「健康サポート薬局」もスタート。病院・診療所を利用したときだけでなく、日頃のちょっとした健康相談にも、近くの薬剤師・薬局を気軽に利用しましょう。

かかりつけ薬剤師・薬局を活用しましょう

かかりつけ薬剤師・薬局とは?

少子高齢化に伴い、病気の予防や健康サポートを地域全体で担っていく体制づくりが求められています。そこで注目されているのが、身近な薬局や薬剤師を「かかりつけ」として活用すること。処方せん無しでも気軽に健康相談やアドバイスを受けたり、在宅療養中に自宅で薬の説明を受けたりするなど、健康について幅広くサポートしてもらえます。

残った薬を薬局へ! 「ブラウンバッグ運動」

飲まずに残っている薬や健康食品を薬局に持って行くのが「ブラウンバッグ運動」(欧米で茶色の紙袋を使ったことからこう呼ばれます)。飲み忘れだけでなく、飲み切れない、形状が苦手な飲みにくい、といった悩みに薬剤師が対応。副作用や飲み合わせの確認など、健康管理のお手伝いをします。いつも薬が残って困っているという方は、薬を持ってぜひ近くの薬局へご相談ください。



まずは身近な薬剤師・薬局に相談!

県内の多くの薬局ではそれぞれ相談窓口を設け、皆さまからの相談を随時受け付けています。薬局で相談した人からは、次のような声がありました。

- 夜に子どもの薬のことで心配になったが、電話で丁寧に教えてもらい安心した
- 医師が忙しいことも多いので、処方された薬のことは薬剤師に相談したい
- 介護の申請について不安だったが、薬局で相談できた
- どの市販薬を選べばいいかわからないので、相談に乗ってもらえると助かる
- 何科を受診すればいいのかわからなかったのが、助かった
- 後発医薬品について丁寧に説明してもらえた



10月17日~23日は「薬と健康の週間」

「かかりつけ薬剤師・薬局」へ 気軽に相談を

薬剤師・薬局は、薬を出したりもらうだけでなく、健康相談にも応じてくれます。10月17日~23日は「薬と健康の週間」。毎日の体調の不安や薬の疑問について気軽に相談できる「かかりつけ」として、薬剤師・薬局を活用してみませんか?



2.地域密着お達者講座(モデル地区)

- お達者講座の実施後の状況(集計途中)
 - お薬シャトルバッグに残薬を持参し、薬局に来局
(残薬整理希望)
 - 残薬整理や健康相談を希望する方が増加

薬局の外へ薬剤師が出向いて情報提供することが
地域の健康維持に役立っていると考えられる



3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

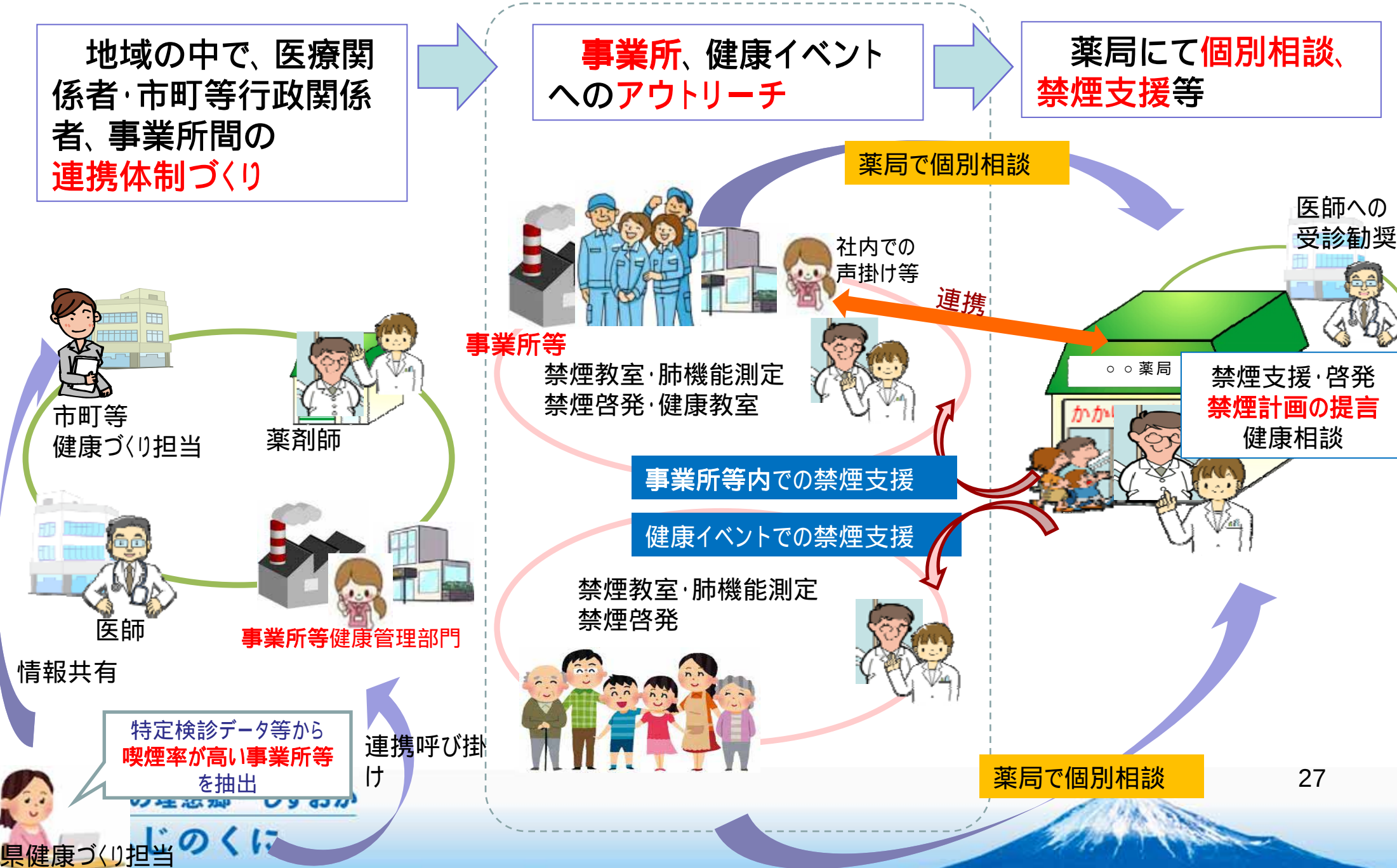
- 地区：富士宮市薬剤師会(県東部地域)
富士宮市の開局薬局47軒、会員数66名で構成



富士宮市は、富士山の西南麓に位置し、
平安初期に造営された富士山本宮浅間
大社の門前町として発展した町

3 卒煙チャレンジサポート教室

アウトリーチ現場への
取材等により県民へ周知



3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

- 医療機関等を含む関係者との連絡会の開催
日 時: 平成28年7月15日(金) 19時30分～21時30分
場 所: 富士宮市救急医療センター 1階 会議室
出席者: 富士宮市健康増進課 3名、
富士保健所医療健康課 1名、県薬事課 1名
富士宮市薬剤師会 5名、県薬剤師会 4名
内 容: 事業概要説明、チャレンジ教室の対象検討
チャレンジ教室受入れ事業所候補選定
平成28年8月3日 医師会との打合せ
平成28年9月14日 保健師との打ち合わせ
平成28年10月19日 富士保健所との連絡会議



3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

- 薬剤師会員に対する事業説明

日 時: 平成28年8月20日(土) 16時30分～20時00分

場 所: 富士宮クリスタルホールパテオン 2階 会議室

出席者: 富士宮市薬剤師会会員 47名

内 容: 事業概要

講演「たばこの害と疾患について」(医師)

卒煙チャレンジ講座資料説明

ハイチェッカーによる肺年齢測定の実践

店内掲示用禁煙サポートポスター配布

会員薬局における対応方法



3. 卒煙チャレンジサポート教室

**薬剤師と一緒に
禁煙
してみませんか!**

•タバコをやめたいが、
やめることができない。
•健康のために禁煙をしたい。
など、禁煙に対して興味を持たれたり、
すぐに禁煙されたい方はご相談ください。
薬剤師がサポートいたします。

富士宮市フーちゃん

薬剤師会会員薬局に
肺チェッカー 配備!

カンタンに
肺年齢が
わかる!

卒煙チャレンジサポート

 静岡県薬剤師会／富士宮市薬剤師会
静岡県健康サポート薬局推進事業

3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

- 卒煙チャレンジサポート教室の実施
開催期間：平成28年9月5日～12月8日
開催回数：6回
対象：富士宮市内3事業所
うち1事業所については3交代制のため
教室の複数回開催
受講者数：1回あたり数～50名程度、延べ164名
内容：喫煙の害とCOPD等の疾患について
肺チェッカーによる簡易呼吸機能測定



3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

● 卒煙チャレンジサポート教室の実施



3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

- 卒煙チャレンジサポート教室の実施後の状況
 - 卒煙チャレンジサポート人数39名
 - (内訳) 教室を受講して来局 2名
 - 店内掲示ポスターを見て 9名
 - 新聞掲載薬剤師の取組を見て 5名
 - 薬局での声掛けなど 23名



3. 卒煙チャレンジサポート教室 (モデル地区)

(1) (朝日新聞) (日刊) 日刊 岳南朝日 2016年(平成28年)9月10日(土曜日) 第19108号



岳南朝日新聞 平成28年9月13日

中東町44-1
44) 28-020
44) 28-021
44) 28-022
44) 28-023
1部60円



薬剤師というところ、いつ「医」という言葉は定着して辞めよう」という意味も薬局にいて医師の処方だが、「かかりつけ薬合」があり、そのための薬を受け取り、薬を出す「局」はなじみが薄い。このノウハウが豊富な薬剤師という印象しかない。そうした中、モデル地区とが全力サポートするという試みだ。

に足を運び、市民に接し、さまざまな健康サポートをするという試みが富士宮市で始動している。

厚生労働省は昨年10月に患者のための薬局ビジョンを公表し、今年4月1日には健康サポート薬局の基準と適合した場合の表示・公表について定めた。今後、長期的視野に立って現在の薬局を「かかりつけ薬局」に再編するというのが、県はこうした推進事業のモデル地区として富士宮市を指定した。

かかりつけ薬局の認知 禁煙支援を手始めに

禁煙のつらさは、それが完全に心身ともに依存症となっていることに起因し、依存物質が切れたことによるイライラ感などの禁断症状を克服しなければならぬ。

薬剤師が薦めるのは、依存しているものを何かに「置換」することだという。「ニコチン」を何らかの無害な嗜好(しこう)品に置き換えることで薬品になるそうだ。この有効性が広まれば、他の事項でも薬剤師に相談しようとの機運がますます高まるだろう。(井出達也)



禁煙支援のため
対応するための24時間体制による電話相談を実施。包括ケアシステムの一環として病院や高

事業を実施して

アウトリーチを行ってみて

実際に自治会や老人クラブ、事業所に出向いて話しをすると
薬局の機能が理解され、相談に来ていただけるようになる
→ 情報拠点としての役割を果たせるようになる

アウトリーチを行うために

- 個の薬局だけでのアウトリーチはハードルが高いが
地域の薬局同士や医師会等の他職種と連携すると行いやすい
- 行政の取組を知ると薬局の活動内容の幅が広がる
連携すると地域包括ケアにも役立つ

